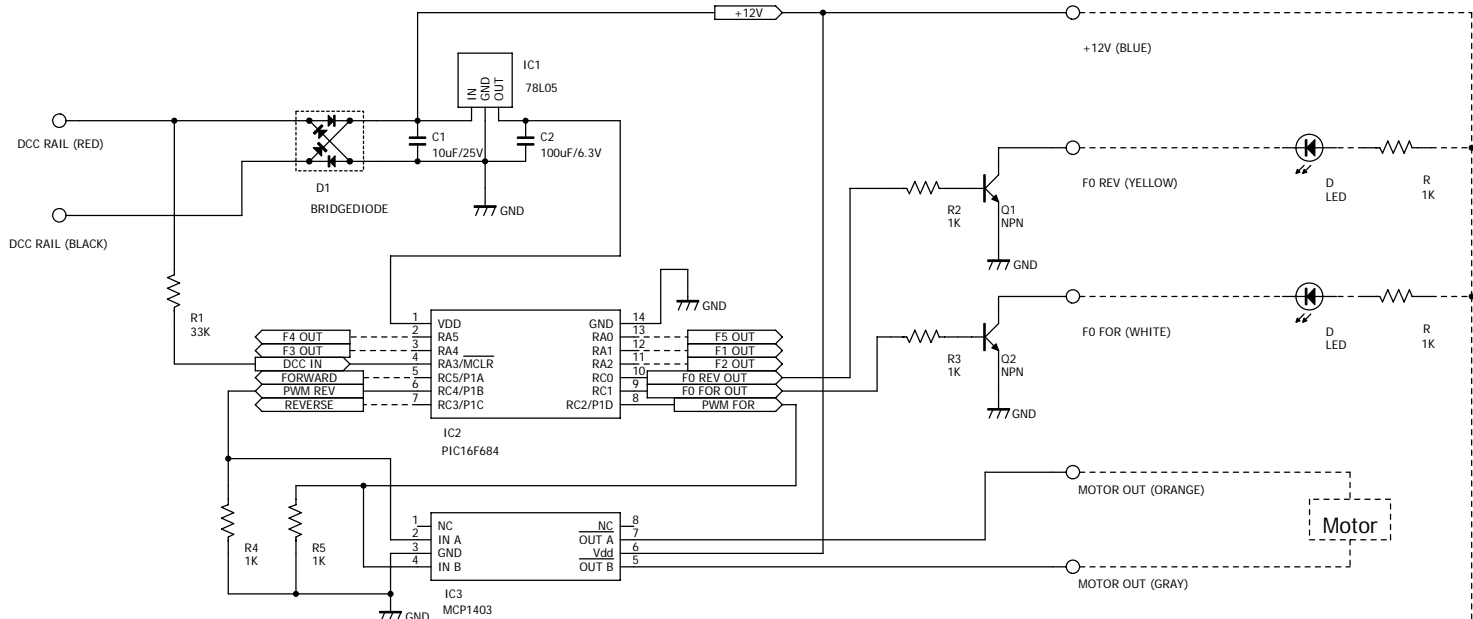


ワンコインデコーダ2



ファンクション回路で使用しているトランジスタQ1,Q2は2SC1815等を使用します。小型化のためF0回路の省略も可能です。面実装部品で製作するときは2SC3325等で制作します。

入換動力車標識モードの接続について

本モードは実物の機関車の入換時に向って右側のテールライトのみを点灯させている状態を再現するモードです。
 制御方法は F0:ヘッドライト F1:テールライト
 F3:入換動力車標識 となっており操作に応じON/OFFします。
 本モードを機能させるには両運転台のヘッドライト、テールライトを個別に点灯できるように配線する必要があります。

【各ファンクション出力とライトの接続】
 F0 REV...逆方向ヘッドライト F0 FOR...正方向ヘッドライト
 F1 OUT...逆方向テール(左) F2 OUT...逆方向テール(右)
 F3 OUT...正方向テール(左) F4 OUT...正方向テール(右)

F5 OUTについてはファンクションF5の操作に応じてON/OFFします。キャブライト、電暖表示灯等に活用ください。

モータ制御については通常モードと変わりはありません。
 (本モードは128ステップ制御のみ動作確認しています。)

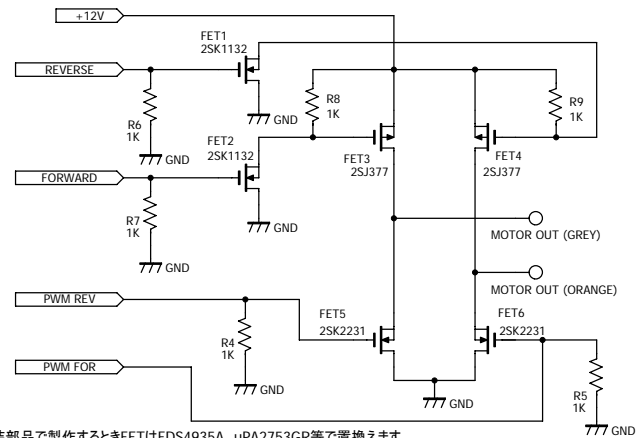
両極性FX専用デコーダモード接続図

(本モード時モータ接続禁止)

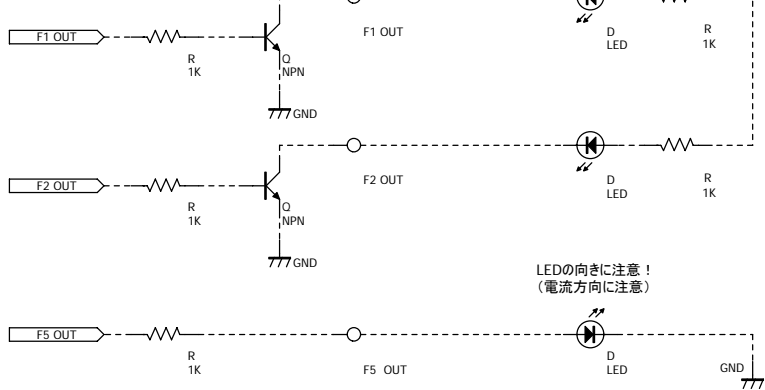
両極性ファンクションモードとは、モータ出力回路をモータではなくファンクションF0で使用するモードです。車両側のライトユニットを改造することなく、レールとライトユニットの間にデコーダを挿入するだけでF0の制御が可能になります。

(本モードは128ステップ制御のみ動作確認しています。)

モータ用Hブリッジをディスクリートで構成の場合 (MCP1403の入手が難しいとき)



ファンクション回路例 (オプション)



F1,F2出力はPICマイコンの出力をトランジスタによるSW回路で制御する回路例です。トランジスタは2SC1815、2SC3325等を使用します。F5出力のようにPICマイコンの出力で直接LEDをドライブすることも可能です(電流値注意)。ハイアン抵抗内蔵トランジスタや、トランジスタアレイを使用することもできます。(このあたりはいろいろと工夫してみてください。)